

# たんちゅう

発行日  
第 9 2 号  
61年12月号  
編集発行  
釧路地方腎友会  
釧路市新富町一番七号  
林田クリニック内



## ※ ※ 目 次 ※ ※

P1 シャント・年末に思う

P2 川湯温泉一泊レポート                      ご冥福をお祈りします

P3 10周年記念式典終る

P4 全国一斉キャンペーン                      私が信じる一村一品シリーズ

P5 腎透析患者の夫とともに

P6 四国の晩秋

P7                      ”                      会員の動向



10月26日、鉦路地方腎友会の10周年記念式典を、会員はじめ多くの市民各層の方々の参加のもと、無事終了することができました。

昨年から作成に取り組んできました10周年記念誌『シャントとともに』はいかがだったでしょうか……？。私共透析患者は、透析を受けるためには『シャント』が必ず必要となります。このシャントと一緒に透析人生を歩んで行かなければならず、10周年記念誌のタイトルも、この『シャントとともに』とした次第です。

『透析』という事を知っている人は『シャント』という意味をすぐわかることですが、一般の人にはこの『シャント』という意味がわからず、『シャント』とは何ですか……？、と訪ねる人もいまして、『シャント』の間違いではないですか……？、などという人さえいる始末です。

この記念誌によって、一般の人に透析についての一部でも認識してもらえ、この『シャントとともに』というタイトルも、なかなか良いタイトルだったのではないのでしょうか……？。

この記念誌について、ご批判・ご指摘等がありましたなら、どしどし云ってきてほしいと思います。今から『20年誌』作成に向けて諸準備をしなければならないと思います。

最近、各報道機関による取材が多くあり、それぞれで報道されております。10周年という行事を無事終了した事、また、今年の10月が厚生省による腎移植推進月間という事に設定された関係なのかはわからないが、何はともあれマスコミが我々の事を取り上げてくれ

ることは、腎友会または透析患者の実態を一般市民に啓蒙するための最良の手段であり、大変喜ばしいことと思います。

10周年記念関係の残整理も終えないうちに、今度は年賀状の取り組みが開始され、いささか私もグロッキーとなり、現在は色々の関係で入院中の身となりました。

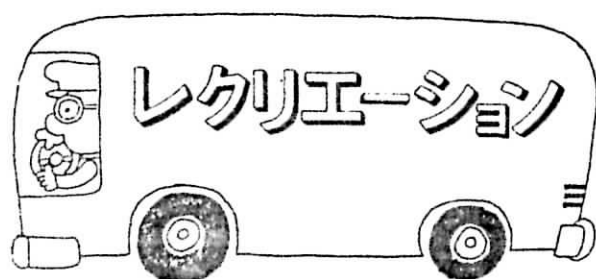
現在行なわれている年賀状の取り扱いでは、11月末現在で注文件数約2500件です。10周年記念行事で取り組みが遅くなった分だけ昨年より注文が遅いようです。

労災病院の一部患者さんが身障3・4級になっていたため、色々と不都合となっていましたが、ようやく上位等級の1級に申請しなおす手続をしているようです。身障1級になりますと、医療費の個人負担もなくなりますので、今後は今迄支払っていた月1万円の負担はなくなるでしょう。労災病院の患者さんには永い間大変ご苦労さまでした。

風の冷たい時期です。風邪などひかぬよう充分気をつけて新しい年を迎えましょう。そして、来年も『ガンノミリ』ましょう……。

シャント





## 川湯温泉一泊旅行レポート

9月20日(土)、21日(日)の両日、恒例の一泊旅行が行なわれました。参加者が50名を越え、バスの中は賑やかな声が満ちていました。  
3:30市立病院発、それぞれ湯のけむりを楽しみにしながら出発!!  
5:40川湯温泉ホテル和光到着。さっそく温泉につかる人、横になる人、

みんなのんびり!

6:30から会食が始まりました。ホテル和光は協立病院の小野寺さんのお兄さんの経営するホテルということもありサービス満点!乾杯も小野寺さんをお願いした。お膳に並ぶ料理は超豪華、食べ切れないほどでした。

病院ごとにメンバーを紹介しあい、そのあとカラオケで親睦を深めました。

夜9時からは川湯の町へ繰り出す人もいて大変な盛り上がり。朝帰りの人もいたのでは……。次の日の朝は目の赤い人がちらほら。

朝食もそこそこに午前9時出発。摩周湖を一目見ようと寄ってはみたものの、あいにく霧が深くても何も見えずガッカリ!お土産を買うだけで帰ってきました。ちょっぴり疲れましたが とても楽しい旅行でした。今回は根室の人達が10名参加してくれたので とても賑やかな旅行になりました。今回参加できなかった会員の皆さん、次の行事には是非参加してください。

小野寺正訓さん

松尾 政明さんのご冥福をお祈りします

協立病院で透析を受けていた小野寺正訓さんは、10月27日、ゴルフを楽しみ、その後、入浴中に倒れ、救急車で協立病院まで運ばれましたが、途中で容態が悪化し、病院で先生・看護婦さん方の親身なる処置にもかかわらず、残念にもご逝去されました。(36才、透析開始58年11月22日)。

また、59年7月24日から透析をしていた松尾政明さんは、最近、特に体調を崩されており、皆さんの期待に反し、病状が回復することなくご逝去されました。(65才)。

この兩名のご逝去に対し、心からご冥福をお祈り申し上げます。

## 釧路腎会 10周年記念式典終る

16名で結成された釧路地方の腎友会も、10周年を迎えた現在では146名の会員にふくれあがり、この節目の年に、会員はじめ今迄お世話になった多くの方々の参加をいただき、釧路地方腎友会の10周年記念式典を挙行し、成功裡に終了する事が出来ました。

晴天に恵まれた当日は、会員83名、家族12名、そして釧路市助役はじめ19名の来賓の方々のご出席をいただき、この10年間、私共透析患者を医療面での技術の向上・治療に当られてこられた市立釧路総合病院の伊藤先生はじめ各透析施設の先生方7名と、16名の腎友会が存続するかどうか分からない時から患者の社会福祉の面でのお世話をいただいている顧問の伊藤道議、高橋市議に対し、それぞれ感謝状とささやかな粗品を贈呈いたしました。

なお、当日会場に来られた次の方々より過分なるご祝儀をいただきましたので、この紙面でご報告させていただきます。

国島医院 院長 国島起嗣夫殿  
藤プリント 社長 水口公平殿  
林田クリニック 宮本治子殿  
林田クリニック 前田涼子殿  
北海道難病連 釧路支部殿  
十勝地方腎友会 会長 新倉義太郎殿  
北見地方腎臓病患者友の会殿  
腎友会会員(移植者) 田村和幸殿  
腎友会会員 阿部英子殿  
腎友会会員 竹内昇殿

また、当日ご出席いただけなかった次の方

々より、力強いメッセージ並びに祝電をいただきました。

### ・メッセージ

北海道難病連 岩崎薫殿  
北海道腎臓病患者連絡協議会殿

### ・祝電

衆議院議員 岡田利春殿  
衆議院議員 中川昭一殿  
道議会議員 若狭靖殿  
北海道釧路保健所長 木村浩男殿  
市立札幌病院腎移植科 平野哲夫殿  
腎友会滝川クリニック院長 菅原剛太郎殿  
北海道医療社会事業協会 遠藤芳彦殿  
市立根室病院 透析室スタッフ一同殿  
札幌腎臓病患者友の会会長 鈴木啓三殿  
小樽・後志地方腎友会殿  
北見地方腎友会殿  
腎友会滝川クリニック透析者の会会長

馬飼野秋雄殿

夕張透析患者友の会会長 須藤亮殿  
岩見沢腎友会会長 山田良明殿  
網走オホーツク腎友会会長 原田幸一殿

このように、皆さんの協力により無事10周年の行事を終えることができました。

今後共みなさんと共に歩む釧路腎会とするよう、そして20年に向けて腎友会会員が一致協力して会活動を進めましょう。



## 全国一斉キャンペーン

厚生省が始めて音頭をとって実施された腎移植推進月間中の10月5日、私共全国の仲間が主要地の街頭に一斉に出て、死後の腎提供について訴えました。

当釧路地方では、金市館前で会員はもとより、厚生省の腎移植推進月間ということでもあり、行政側からは釧路市役所、釧路保健所の職員の方々並びに地元釧路連支部からも応援に駆け付けて下さいました。また、顧問の伊藤道議も参加する予定でしたが、道議会中で札幌のため参加出来ず、秘書の方が共に行動に参加して下さいました。

今回は、実施場所を変えて金市館前で行ないましたが、この場所は人の流れが分散されてしまう場所であり、折角会員外の方が参加して下さったキャンペーンとしては、今ひとつの行動結果となりました。

また、実際に移植を希望されている方の参加が少ない面も気にかかる所でした。



『私が信じる一村一品』シリーズ

道東の市町村にあり、『かくれた名物』となっている品々を、会員の皆様のご協力で紹介するコーナーです。『私はこれが……!』とお思いの方は、お気軽にご連絡下さい……。

### No.4 『カニのてっぽう汁』(カニ入りスープ)

根室の岡田会員よりのレポートで、根室の名物『カニ入りスープ』の紹介を致します。

缶詰の形状『4号缶で内容総量425g用』。1缶500。1箱(3缶入)1500。製造元は、根室市海岸町2丁目55番地、株式会社『マルユウ』。TEL 根室3-4121・3-4871番。



※『カニのてっぽう汁』(みそ汁)の作り方

- ・材料：(8人分) 1缶、みそ
- ・作り方：缶詰を開け、身・汁共鍋に入れ、缶に2~3杯の水又は湯を増量して、火にかけて沸騰したら、みそにて味付けし、ネギ・ミツバ等を浮かしお召し上り下さい。

その他、『カニ・コンソメスープ』『カニ磯鍋』『カニクリームスープ』等、根室市商工会館内レストラン『ニューかおり』さんにてメニューとして取り上げておりますので、訪根の折は、是非ご試食の上、『カニ入りスープ』缶詰をお求め下さい……。

## 腎透析患者の夫とともに

協立病院 鈴木 紀子(家族)

夫、鈴木安男は、結婚して間もない昭和41年、教職員集団検診で尿タンパクが出ているということでしたが、特別の症状もないため、他人の二倍は働き、行動的で元気な生活を送っていました。

54年、高血圧で倒れた時から腎炎も徐々に進み、当時くしろ医院の嶋本先生から、夫の腎機能は、『5年。大事にしたら10年はもつ。』と言われつつも、ずっと先のこととしか考えられない私でした。

ところが、60年10月、慢性腎炎が急速に悪化。人工透析の話が現実となった時、嶋本先生から『最近の透析器械は昔と違い、大変良くなっている。片足がなく不自由なのと同じように、人工透析になると不自由はあるが、天寿を全うすることも可能である。』と話されました。やはりショックでした。

長男が予備校で受験勉強で大切な時。父親の病気で精神的負担がかからぬようにと、私は緻密にカロリー計算をし、一人分だけ食事を作り、夫は時には吐き出しそうになるのをおさえ食べ、悪化を防ぐため頑張りました。その甲斐があり、長男は2月、次男は昨年11月に大学合格通知を受け取りました。

4月からは、小学校教員の夫は新1年生を担当し、息子2人は大学生、高2の娘、私は専業主婦となり、我が家は幸せでした。しかし5月中旬頃から体調が思わしくなかった夫は、ついに6月4日、2時間目の授業を終え礼をしたとたん、目の前が暗くなり意識不明寸前で、救急車で協立病院に運ばれ、入院生

活が始まりました。6月10日、シャント設営。夕食後、嶋本先生が見えられ、『とてもいい、きれいなシャントができました。』と言われ、夫と娘の三人に聴診器で音を聞かせて下さいました。ザーザーと波のような音、力強く生きている音。シャント成功にただ感謝しました。

そして、6月25日、透析が開始されました。この日を私達は『第2の誕生日』と呼んでいます。夫は『針をさされた時、すごく痛かったです。これがずうっと続くのだったら大変だナ。』と言っていました。今は慣れたと言います。

幸い透析後、殆んど不均衡症候群もなく、7月20日退院し、不安を抱きながらも、翌日から出勤致しました。

2学期になってからも、透析者独特の心身の苦痛を越えて、一日も休まず勤務しています。職場では、学校長・諸先生方が夫を暖かく理解し、配慮して下さい、良き同僚に恵まれた幸せに感謝する日々です。

こうして勤務できるのも、医学の進歩、透析患者の生命をかけた医療費無料の実現などによるものと考えています。

これからも、医師・スタッフの方々のご指導を仰ぎ、腎友会の皆様の貴重な体験を学ばせて頂き、共に歩み、透析者の夫が『天寿を全う』すべく、微力ですが努力を惜しむことなく尽していきたいと考えています。



本の力を感じて嬉しいような誇らしいような気がいたします。四国は北海道より田舎だと感じる部分があります。が、太四架橋ができるころはずいぶん変わっていることでしょう。観光客受け入れの為にホテルの建設、しゃれたレストラン、道路の整備。私の滞在している数か月でも周囲の感じはかなり変わってきました。一つの地方の歴史の節目をお客の立場でみているせいでしょうか、客観的に世の中の動きを感じることが出来ます。希望のある明日が社会の上にも私達個人の上にもあるようになどとしみじみと思うことがあります。

そろそろ夜も冷えてまいりました。化石世代（今日の新聞にそうありました）の私には四国の寒さもやはりこたえます。つぎのお便りはお正月あたりになりましょうか。どうかみなさま風邪にお気をつけくださいませ。

昭和61年11月16日

香川県坂出市府中町

（中條 哲 方）

早坂 要

---

## 会員の動向

### ◎新患者

・土岐亀太郎

根室市

### ◎変更事項

・小野寺正訓・協立病院・61年10月死亡

・松尾政明・協立病院・61年11月死亡

・波佐政男・協立病院・61年9月死亡

### ◎新会員

・畑中昭子・根室市立・61年11月より

---



## 四国の晩秋

やっとこの地にも紅葉の季節がやってきました。近くの畑では刈り取りの終わった水田を鋤き返して次の作物を植える準備をしています。北海道ではもう雪の便りが聞かれ、冬の準備のあわたたしさが感じられますが、こちらはのんきなものです。越冬野菜や漬け物の蓄えは特別に必要ではありません。北海道から出たことのない私にとっては驚くべき暖かさであり、冬に対する無防備であります。山の斜面や庭さきではみかんが温かな色合いで無造作に実っています。道にこぼれていても拾う人もいないとのこと。柿の実はもう終わりで、こずえに一個、二個と残っているのがどこか寂しげであります。しかし子供達はたいへん元気です。いくら暖かいといってもやはり大人は厚手の外套や下着類が必要な寒さになってきているのですが、彼らは素足に半ズボンやスカートをはいているだけです。真冬でもこのままの服装だというのだから驚きです。まず冬の厳しさはないといえます。北海道の十一月程度の気温で冬は終わるようです。確かにこれなら香川県の人には長生きするはずですよ。

驚くことは暖かさだけではありません。世界最大規模の瀬戸大橋の工事現場を間近まで行ってきてみました。オートバイでこれ以上は危険というところまで近付いたのです。とにかくその大きさは形容のしようがありません。巨大なコンクリートの塊の行列です。巨大なビルディングの群れです。まるで巨人に囲まれているようで恐ろしいような気がしました。その巨人を豆粒程もないような人間が造っているのですねえ。橋を吊るケーブルは細いピアノ線を34417本たばねたもので一メートル余にもなります。NHKで架橋工事に携わる、とび職の人々の仕事を放送していましたがとにかくすごいものです。橋げたを接続するために三千本のボルトを締め上げる作業をする場面でした。ミリ単位の仕事、海上二百メートル上での危険な作業。テレビを通じてでも緊張は痛いほど伝わってきます。そんな人々の働く架橋現場を直接見る時、なにか生き生きとした日



本の力を感じて嬉しいような誇らしいような気がいたします。四国は北海道より田舎だと感じる部分があります。が、太四架橋ができるころはずいぶん変わっていることでしょう。観光客受け入れの為にホテルの建設、しゃれたレストラン、道路の整備。私の滞在している数か月でも周囲の感じはかなり変わってきました。一つの地方の歴史の節目をお客の立場でみているせいでしょうか、客観的に世の中の動きを感じることが出来ます。希望のある明日が社会の上にも私達個人の上にもあるようになどとしみじみと思うことがあります。

そろそろ夜も冷えてまいりました。化石世代（今日の新聞にそうありました）の私には四国の寒さもやはりこたえます。つぎのお便りはお正月あたりになりましようか。どうかみなさま風邪にお気をつけくださいませ。

昭和61年11月16日

香川県坂出市府中町

（中條 哲 方）

早坂 要

---

## 会員の動向

### ◎新患者

・土岐亀太郎

根室市

### ◎変更事項

・小野寺正訓・協立病院・61年10月死亡

・松尾政明・協立病院・61年11月死亡

・波佐政男・協立病院・61年9月死亡

### ◎新会員

・畑中昭子・根室市立・61年11月より

---